

1、2級合わせ102人が難関に挑戦

鉄筋組立て技能検定実技試験

関西鉄筋工業協同組合（岩田正吾理事長）は2月9日と10日の二日間、堺市美原区の竹中工務店西日本機材センターで、平成24年度の「鉄筋組立て技能検定実技試験」を実施しました。今回は二日間で1級99人、2級3人の合計102人が受検し、それぞれ合格めざして真剣な表情で試験に取り組んでいました。

鉄筋技能検定は昭和45年度から始まった国家資格制度で、試験に合格すれば1級は厚生労働大臣、2級は都道府県知事から合格証と鉄筋技能士章が交付されます。受検資格は1級が実務経験7年以上、2級が同2年以上です。

組立て試験の課題は配筋図と仕様に従い、曲げ加工された鉄筋を使用して基礎・柱・基礎梁の取り合い部を組み立てるもので、標準時間は1級が1時間40分（延長30分）、2級が1時間20分（同20分）となっています。

二日間の試験では、首席の戸田裕雄副理事長をはじめとする14人の検定委員・補佐員がグループに分かれ、組み上がった鉄筋の配筋精度や仕上がり、結束忘れなどをチェックし採点していました。戸田首席検定委員は「資格取得が行き渡ってきたこともあり、近年は20～30代の若手の受検者が多くなってきている。全体的に技量が低下しているのが気になるが、合格めざしてがんばってほしい」と話しました。また、検定委員でもある岩田理事長は「建設業界の資格に対する認識は高くなってきたが、国家資格の鉄筋技能士がもっと活用され、個人の賃金などに反映されるようにしなければいけない」と有資格者の処遇改善の必要性を求めました。

そのほか、試験会場には大林組、鹿島、清水建設、長谷工コーポレーションの元請企業からも関係者が見学に訪れ、課題に取り組む受検者の作業を見守っていました。なお、今回の実技試験の合格者の発表は、2月3日に行われた学科の結果と同じく3月15日となっています。

技能検定委員及び補佐員は次のとおり（敬称略）。

検定委員＝戸田裕雄（首席・戸田鉄筋）▽岩田正吾（正栄工業）▽原田浩一（近畿施設工業）▽西岡義克（西岡鉄筋工業）▽叶順治（KANO CENTER）▽又野吉史（又野鋼業）▽田中勲（関西スチールフォーム）▽恵谷信（恵谷鉄筋）▽中嶋利之（ワイ・エー・ナカジマ）

補佐員＝田村晃一（田村工業）▽富田勇（富田興業）▽鎌田厚（鎌田鉄筋工業）▽長木鉄次（長木鉄筋）▽辻本浩二（辻本鉄筋工業）

検定状況

